

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 町民の暮らしについて	寒い朝、震災後二度目の冬。少々慣れた手つきで
	朝食の用意、今日は女川には行かない。娘を送り出
	す。後片付けをしながら今日一日をどう過ごすかを
	決める。夕食は魚定食の番だ。秋刀魚と赤魚と野菜
	を買って・・・云々。
	震災前の普通の暮らしを思い出しながら、「家庭の
	味」を取り戻そうと悪戦苦闘。雑踏と砂押川辺りの
	自然とクラシック、なんとかかんとか生活のリズム
	が固まりつつあるようだ。肝心の二人を欠きつつの
	家庭らしきものが固まりつつある・・・。
	復旧、復興へ向けてのハード面の進捗は遅まきな
	がら着実に進みつつあるが、町民の日々の暮らしの
	状況はどうですか、次の点について伺います。
	(1) 健康（インフルエンザ、ノロウイルス、精神 面）
2 人間関係（いじめ）に ついて	(2) 生きがいと仕事（収入）
	(3) 生活のリズム
	(質問の相手：担当課長)
	心を許せる知人と痛飲した翌日、携帯が鳴る。先 輩からの電話だと痛い頭で応対。その時以来その知

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
3 本町経済について	人とは絶縁中。
	65 歳と 78 歳の人間関係は未だに修復でき兼ねている。互いに多分、精神的ストレスを抱えてもいるはずだ。とにかく人間関係は難しい。
	学校を舞台の子どもたちの人間関係の所産（？）、いじめ問題はやっかいなものだ。新聞によると、いじめ件数が大幅に増加している。また、いじめ対応を教員評価対象にするとかが報道されている。等々。
	一番の問題は、かけがえのない自死へ至ることだが、対処の決定版がない。警察に任せる程度のものは論外だが、もう少し知恵があってもいいはずだ。
	特に一生の間にこれ程のものはないという体験をした本町の子どもたちには、今後の人生航路の荒波を敢然と乗り越えていく術を授けたいものと考えてるが。
	(質問の相手：教育長)
	日本を取り巻く景気動向が不況へと向かっている。一方で復興特需がある。その中で「女川丸」はどういう舵を取るべきか。次の点について伺います。
	(1) 家計・企業・町財政は。

質 問 者 佐々木 新一郎

[illegible]